

新型コロナウイルス感染症による臨時休業等の影響もあり、子どもたちはこれまで経験したことのない気持ちで新年度を迎えます。学級がどの子どもたちにとっても安心できる「居場所」としてスタートするために、組織体制で学級びらきを支えることが重要です。

【学級びらきポイント例】

環境

どの子どもも生活や学習がしやすいように整える

- 座席配置や班編成が子どもの実態を考慮して意図的に決められている。
- 学級掲示は子どもの取組や関係づくりが見えるよう計画されている。
- ロッカーは機能的に活用できるように割り当てや使い方が工夫されている。
- できない子ども、わからない子どもの視点で考えられている。

学年によっても
かわりますね。



規律

最初の3日、7日、30日が
1年間の土台となる

- あいさつの号令役や文言を明確にしている。
- 基本的な規律(時間を守る、服装を正す等)を明確にしている。
- 係活動・掃除・給食等の分担や役割が決まっている。
- 学年や学校で朝の会・終わりの会の分担や流れが決まっている。
- 「これだけは絶対に守る！」という担任の信念を伝えている。

関係

教師と子どもがつながる
子どもと子どもがつながる

- 最初の学級通信で担任の思いや学級経営の構想が伝えられている。
- 交流学級や特別支援学級について理解する機会(通信・紹介等)がある。
- 子ども同士がつながる取組(エンカウンター等)が準備されている。
- 子どもが自身で、個人や集団を振り返る機会が準備されている。

教室にはいない子どもたちに配慮
したり支援したりする教師の姿を、
他の子どもたちは見えています。



【チーム学校で学級びらきを支える】



わからないなあ…
不安だなあ…



西部教育局リーフレット

「教師として大切にしたいこと
～子どもを伸ばす先生～」



- 子どもと信頼関係を築き、意欲を伸ばすための「見る 聞く 認める」
- 「若手教師のための学級づくり」
- 西部教育局HPからダウンロードできます

検索



○ 学年や学校で取組を統一する。

→ 共通の通信や掲示は今後の継続した取組にもつながります。

○ 校内研修で取組や意義についての理解を深める。

→ これまでのPDCAサイクルを参考にして、形式だけではなく意義を理解します。

○ スクリーニング会議やケース会議で関係機関と連携する。

→ SCやSSWの視点も加えて、一人一人の児童生徒理解を深めます。

アセスメント(見立て)やプランニング(目標設定・手立て)も確認できます。

わからないことは
聞いてみよう!

たくさんの目で見てもらえ
るから子どもも安心できる!

「学級づくり」は
「職員室づくり」から!

